

坂本だより



長崎市立坂本小学校 学校便り
令和3年 9月 2日(火) No.8
編集・発行責任者 校長 金子 伸治

教育目標 笑顔の花を咲かせよう ～ 自ら考え、学び合い、行動し～
笑顔いっぱい(心)、元気いっぱい(体)、やる気いっぱい(頭)

2学期が始まりました

昨日から2学期が始まりました。子供たちは、けがや病気もなく、大きな事故等にも合うこともなく元気に登校でき、リモートでの始業式を行いました。その中の校長講話を紹介します。オリンピックやパラリンピックを見て、私が印象に残った3つの話をしました。

一つ目は、混合ダブルスの水谷選手と伊藤選手の試合です。準々決勝の最終セット。9対2から10対6にまでなって、あと1点取られると負けになる崖っぷちのところまで追い詰められました。そして、大逆転で勝った試合です。負けそうになった絶体絶命の時でも、破れかぶれにならないで、あきらめない姿勢、焦らずに自分たちの力をしっかり出しきろうと我慢するところは我慢し、攻撃できるところは失敗を恐れずに攻撃しているところでした。**あわてず、あせらず、あきらめずに最後まで物事に取り組み**ことの大切さを話しました。

二つ目は、スケートボードの試合後のことです。スケートボードでは、成績に関係なく、演技が成功しても失敗しても演技の後に競技者のみんなが駆け寄ってその競技者をねぎらい、励ますシーンが見られました。勝ち負けよりも難しい技に挑戦することに対して尊敬を表していました。ほかの競技でも、勝者敗者関係なくお互いの頑張りをたたえるシーンがとても印象的で、**挑戦すること、頑張ることを認め合えることは素晴らしいこと**だと伝えました。

三つ目はパラリンピックのすべての種目になります。身体が不自由でも自分にできることを精一杯頑張っていました。自分の身体を精一杯使っていた水泳競技の鈴木選手。そのほかにも車いすを巧みに操りながら競技をする長崎出身の鳥海選手、両手がなくても卓球のラケ

ットを口にくわえて行う選手の紹介をしました。自分の限界を決めずに、自分の可能性を追求する選手の姿から、それまでの努力、頑張りに注目してほしくて話をしました。

例年だと2学期は、学習発表会、修学旅行、小体会、宿泊学習、稲刈り、小音会、そのほかの学年も社会科見学などの活動や行事が盛りだくさん計画されています。しかし、6年生の小体会、3年生の小音会、にこにこ学級、きらきら学級の交歓会はコロナ感染症予防のため、残念ながら中止となりました。

行事がなくなっても一時間一時間の学習の積み重ねや生活態度が自分自身の心と頭に力を付けます。一人一人が**自分の可能性に限界を決めないで、挑戦し続け、その頑張りの挑戦に対してみんなで認め合える坂本小の2学期**となるように頑張ろうという話をしました。

御家庭でも子供たちの努力や頑張ったことを認め、挑戦し続けることができるように励ましの言葉を掛けるようお願いいたします。

9月の行事予定

- 1日(水) 第2学期始業式
- 2日(木) 体位測定(高学年)
- 3日(金) 体位測定(中学年)
- 6日(月) 2,3,4,5年お弁当の日(1,6年給食有)
ALT来校
- 7日(火) 2,3,4,5年お弁当の日(1,6年給食有)
- 8日(水) EEI来校
- 13日(月) ALT来校
- 20日(月) 敬老の日(祝日)
- 21日(火) 平和ウォーク5年
- 22日(木) 平和ウォーク5年 EEI来校
- 23日(木) 秋分の日(祝日)
- 24日(金) 平和ウォーク5年
- 27日(月) ALT来校